

私 の 工 夫

高等学校での「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

県立倉敷青陵高等学校

指導教諭 中野 修一



1 はじめに

現在、「学習指導研究室」という部署で校内研修の企画・運営を行っている。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、学校経営目標の①「高質な学力の養成」を主体的に学び、②「夢の実現を支える進路指導の充実」の達成を目指している。組織としてのこの研究室の役割は授業の質を向上させ、生徒の学習が主体的で対話的になり、それが最終的には深い学びにつながるための方策を考えることである。

2 これまでの主な取組

平成24年度に教科主任を中心と

- ・ H 24 学習指導研究会の組織
- ・ H 25 グローバルスタンダードの学力研究
- ・ H 26 学習指導研究室の設置
- ・ H 27 大学入試改革の動向について全職員での研修

した「学習指導研究会」が組織されて、授業改善に向けて動き始めた。平成25年度にはグローバルスタンダードの学力研究がテーマになり、生徒の自律性・主体性・課題解決能力を育成するための授業研究を行った。平成26年度には「学習指導研究室」が校内分掌の一つに位置づけられて、校内研修を牽引する役割を担うようになり、以後、大学入試改革やアクティブ・ラーニングについての研究を進めてきた。

3 平成29年度の取組

- ・ H 28 岡山大学の高旗浩志先生によるアクティブ・ラーニングの捉え方についての研修

まずは、行政と外部専門機関との連携である。「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけた研究を学校単独で行うことはなかなか難しい。そこで、本校と行政（岡

山県アクティブ・ラーニング推進委員会、次世代型教育推進委員会）と外部専門機関（岡山大学、日本協同教育学会）と連携することで、最新の正確で適切な情報を校内に提供できるようにした。（図1）
また、教科の専門性と各教科に共通する授業づくりの基盤を認識した上で、高い専門性を犠牲にすることなく、教科を越えた相互の授業参観の視点を持つことができ

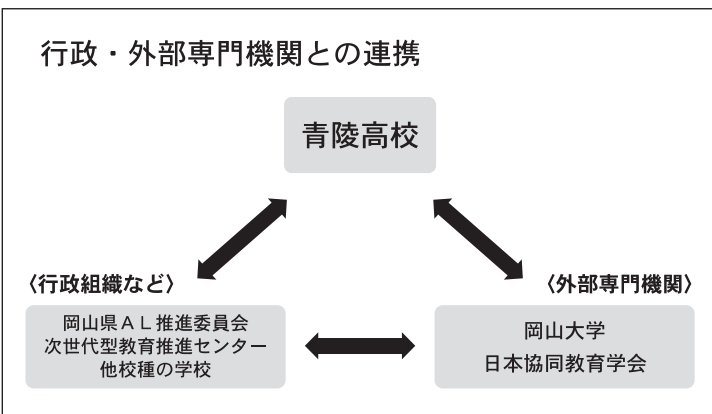


図1 行政・外部専門機関との連携イメージ

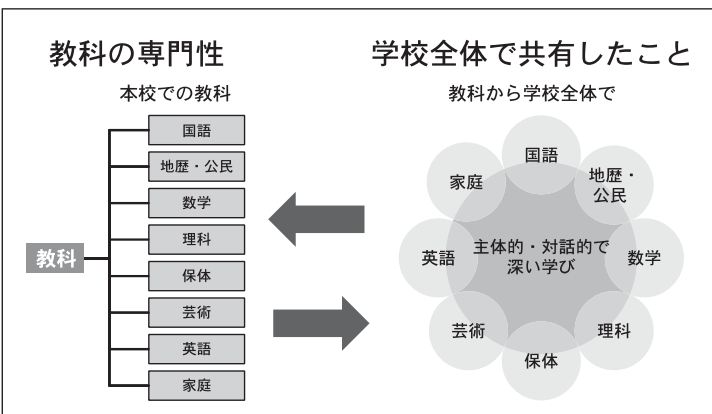


図2 教科の専門性と各教科共通部分



図3 教科での研究授業と協議

具体的には、5月(①参照)の研修において、「主体的・対話的で深い学び」についての理論を学校全体で共有することで、教科の枠を越え、相互の授業を見るための共通の視点をもつことができた。高等学校では教科の専門性が強く、自分のものとは異なる授業についてお互いに意見を言うことが容易ではないと思われるが、協同学習の理論を学ぶことで相互の授業参観の共通基盤を持つことができた。

次に、7月(②参照)の研修では、5月の全体研修に学んだ「主体的・対話的で深い学び」の原理を各教科の授業で具現化してもらった。あえて公開せず、校内研修と位置づけ、教科ごとに一つの学習指導案を検討する機会を設け、それに基づいた授業を実践し、研究協議を行うことで授業の方向性について理解を深めることになった。(図3)

そして、10月(③参照)の下旬には、7月の研究授業の内容をさらに深めて公開、発信することで、青陵高校版の「主体的・対話的で深い学び」の普及と、参加者から多様な意見をいただくことで授業改善の深化につなげた。実際には、6教科で13講座の授業公開を行い、県内外200名を超える参加者か

平成29年度 倉敷青陵高校
指導教諭・教諭による公開授業
平成29年10月27日(金)
12:55～受付
13:50～公開授業 6限
14:45～公開授業 7限
15:50～研究協議

指導教諭 三村美紀 7限 3年 国語	指導教諭 中野修一 6限 3年 外国語	指導教諭 大橋武文 6限 2年 化学
教諭 村山大輔 7限 3年 物理	指導教諭 藤波俊晴 6限 2年 地理	教諭 河内一郎 6限 1年 世界史
教諭 二宮健一 7限 1年 外国語	教諭 広瀬洋介 6限 3年 体育	教諭 田中誠一郎 6限 2年 国語
教諭 岡本康志 7限 3年 数学	教諭 中山 学 6限 3年 体育	教諭 宮原孝光 6限 2年 外国語
教諭 湯浅太一 7限 1年 数学	教諭 前花直康 6限 3年 体育	
教諭 村上裕亮 7限 1年 国語		

岡山県アクティブ・ラーニング推進委員会研究協力校
日本協同教育学会第14回大会プレ大会会場校
主催 岡山県立倉敷教育院高等学校 710-0143 岡山県倉敷市羽島1049-2 電話086422-9001

図4 「主体的・対話的で深い学び」の普及と深化

の新たな課題設定を行い(④参照)、PDCAのサイクルのP(Plan)に戻り、次年度を迎える準備ができるようにした。

〔昨年度の主な研修〕

- ①理論を校内で共有 授業を見る 共通の視点をもつ
- ・5月18日(木) 講師 中京大学 杉江修治 教授
- 演題 「主体的・対話的で深い学びに迫るための協同原理の理解と実践化」
- ②理論ベースでの理解を専門性に基づく教科実践へ
- ・7月20日(木) 6教科で、各教科1講座の指導案検討、研究授

らの貴重な意見が高質な学力の養成に大きく寄与した。

(図4)

最後に、1年間の活動を振り返りと同時に次年度の活動に向けて

業、研究協議

③ 「主体的・対話的で深い学び」の普及と深化

- ・10月27日(金) 日本協同教育学会第14回大会プレ大会会場として授業公開
- 235名の県内外からの参加者と外部専門機関より13人の指導助言者
- ④1年間の振り返りと次年度の教育活動の準備としての研修会
- ・3月19日(月)

4 成果と課題

成果としては、授業の目標やねらいをはっきりとさせ、教科ごとの基盤となる知識を身に付けさせた上で、主体的・対話的な学びの場を授業の中に設定することにより、生徒の学びへの意欲が大きくなり、高まることが確認できた。課題としては、教科・科目・教材・単元により様々な場面があり、授業形態を変化させながら、より「深い学び」の実現について教員間で絶えず研鑽を重ねながら検討していく必要がある。